

# かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

Vol. **77**

2018 WINTER



**特集** 灯台150周年記念式典

# 灯台が歩んだ 150年の歴史と今

海上保安庁  
JAPAN COAST GUARD



海上保安制度創設70周年

観音埼灯台(神奈川県横須賀市)

# かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **77**  
2018 WINTER

## PHOTO GRAVURE

- 1 海上保安庁 新長官に岩並氏 3代連続で「現場」出身
- 1 世界海上保安機関実務者会合を開催
- 2 佐渡海上保安署、唐津港湾合同庁舎 新庁舎完成
- 2 新しい測量船の船名決定
- 3 海上保安制度創設70周年記念  
第19回「未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」受賞作品決定!

## [特集]

灯台150周年記念式典

- 4 **灯台が歩んだ  
150年の歴史と今**

## TOPICS

- 12 **NEWS FLASH** ニュースフラッシュ

裏表紙

## INFORMATION

「灯台絵画コンテスト2018」「灯台フォトコンテスト」受賞作品が決定!!

1  
Photo Gravure  
海上保安庁 新長官に岩並氏  
3代連続で「現場」出身



中島前長官から岩並新長官へ庁旗の引継ぎ



庁旗を引き継いだ岩並秀一 新長官



新長官就任挨拶

平成30年7月31日、中島敏前海上保安庁長官が退任し、岩並秀一 新海上保安庁長官が就任しました。現場出身者の長官就任は、佐藤雄二氏、中島敏氏に続き3代連続となります。

東京都霞が関にある中央合同庁舎3号館共用大会議室においては、海上保安庁長官交代式が行われ、中島前海上保安庁長官から岩並新長官へと庁旗の引継ぎが行われたほか、前長官、新長官それぞれが職員に対し挨拶を行いました。新長官就任記者会見では、「中島長官から引き継いだ海上保安体制強化の方針あるいは各国との連携・協力の道筋を継承し、海上における安全秩序の維持、領域や海洋権益の保全に向けて、全力を尽くします」と抱負を述べました。

2  
Photo Gravure  
世界海上保安機関実務者会合を開催



世界海上保安機関実務者会合（品川プリンスホテル）



海上保安庁総務部長



会合の様子

11月27日から29日までの間、東京（品川プリンスホテル）において、世界66の国及び国際機関等（58カ国、8国際機関等）から海上保安機関の実務者が参加する「世界海上保安機関実務者会合」を日本財団と共催しました。

会合の冒頭では、海上保安庁上原総務部長から「昨年開催した世界海上保安機関長官級会合を経て培った世界規模の連携をより深め、本会合が世界の海上保安機関をつなぐ対話と協力のプラットフォームとして、さらに発展することを期待している」旨述べました。

本会合では、「情報共有手法の検討」「海上保安国際人材育成」、「会合運営ルールの策定」の3つのテーマについて議論を行い、世界をつなぐ新たな教育や研究の機会及び情報共有システムの構築について具体的な検討を始めることで、実務者レベルの理解を得られることができました。

また、この会合で得られた結果を高いレベルで確認し、実現していくため、来年、第2回目となる「世界海上保安機関長官級会合」を日本で開催することが決まりました。

# 佐渡海上保安署、 唐津港湾合同庁舎 新庁舎完成



佐渡海上保安署新庁舎：新潟県佐渡市両津東384番地1



唐津港湾合同庁舎：佐賀県唐津市二夕子3丁目214番地6



屋上津波避難スペース

津波避難階段



エントランスホール

身障者用トイレ

平成30年7月7日、佐渡海上保安署の新庁舎が完成し移転しました。

新庁舎建設に際しましては、国土交通省北陸地方整備局のこれまでの知識・経験・技術が全て注ぎ込まれ、海上保安庁の要望はもちろん、地域の特性やニーズについてもきめ細かに具現化され、行政機能、災害応急機能はもとより、周辺地域と調和した景観形成などにも寄与する施設整備を目指して工事が進められてきたものです。

平成30年5月30日、新「唐津港湾合同庁舎」が完成しました。旧唐津港湾合同庁舎は築45年が経過し、老朽化による建替えが、九州地方整備局により実施されたものです。

佐賀県側が計画する唐津港東港地区における耐震強化岸壁の整備や緑地及びふ頭用地の整備と、今回の建替え計画の事前調整の中で、佐賀県側から提案された県有地と旧庁舎国有地の交換が実施されるなど、いくつかの障害を九州地方整備局の支援・指導を受けながら乗り越えて、無事完成を迎えることができたものです。



# 新しい測量船の船名決定

(注) 測量船のイメージ図です。全長約103m、幅約16m、総トン数約4,000トン、最新の観測機器を搭載し、海底地形、地殻変動、海流観測等高度な海洋調査を行う海上保安庁最大の測量船となります。



海上保安庁では、海洋情報業務と測量船が行う海洋調査について、広く国民の皆様にご理解と親しみを持って頂くために平成31年度に新たに就役する大型の測量船の船名を、平成30年5月から6月の間で一般公募を行ったところ、メール、葉書等を合わせて1,819件もの応募を頂きました。応募頂いた多数の候補の中で応募数が一番多かったことなどを踏まえ、選考を行った結果、海洋調査を通じて、平和な海、平穏な海を目指していくという思いを込めて『平洋（へいよう）』と名付けました。就役後の平洋は、海底地形調査等の海洋調査に従事し、特に我が国の海洋権益を確保していくという重要な役割を担っていきます。全国の皆様から多数のご応募を頂きまして有り難うございました。

海上保安庁では、将来を担う小中学生の子どもたちに海洋環境について考える機会を提供することで海への関心を高め、海洋環境保全思想の普及を図るとともに、海上保安業務への理解の促進を図ることを目的として、公益財団法人海上保安協会との共催で「未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」を開催しています。

今年で19回目を迎えた本コンクールには、全国の小中学生から31,800点の応募があり、審査及び選考の結果、特別賞（国土交通大臣賞）1点、海上保安庁長官賞及び海上保安協会会長賞として各部門1点の受賞作品が決定しました。また、今回は海上保安制度創設70周年記念として、「海上保安制度創設70周年記念賞」を設け、受賞作品1点を決定しました。



特別賞(国土交通大臣賞)  
中学生の部

おのぎきりん  
小野崎 琳さん

神奈川県 横浜市立中和田中学校 3年生



海上保安制度創設70周年記念賞  
小学生低学年の部

すなかわ  
砂川 うたさん

沖縄県 宮古島市立西辺小学校 3年生



とよた こうへい  
小学生低学年の部 豊田 暁平さん  
徳島県 小松島市立南小松島小学校 3年生

海上保安庁長官賞



おおくら かずほ  
小学生高学年の部 大倉 和穂さん  
佐賀県 唐津市立北波多小学校 4年生



まつだ まゆこ  
中学生の部 松田 真優子さん  
愛知県 清須市立新川中学校 3年生



つづき かんすけ  
小学生低学年の部 都築 完輔さん  
愛知県 常滑市立西浦北小学校 3年生

海上保安協会会長賞



よりともしだい  
小学生高学年の部 寄友 大毅さん  
京都府 京都市立西院小学校 6年生



まつおか りさ  
中学生の部 松岡 理沙さん  
香川県 高松市立桜町中学校 1年生



観音埼灯台

観音埼灯台  
受付



特集 灯台150周年記念式典

# 灯台が歩んだ 150年の歴史と今

皇太子同妃両殿下がご臨席なされ、灯台150周年を記念する式典を挙行政。海上保安庁が大切に守り続けてきた灯台の伝統の重みを知り、現代においても海の道しるべとして活躍する灯台の歴史と魅力を探っていこう。

取材・文：鈴木裕太（モメント株式会社） 撮影：長谷川 朗 写真：観音埼灯台



日本郵便(株)が発行した郵便切手「灯台150周年」。明治期に建設された本州・四国・九州の灯台が可愛いイラストで描かれている。左から観音埼灯台、神子元島灯台、室戸岬灯台、部埼灯台、観音埼灯台(初代)が描かれる

## 灯台150周年を記念し 盛大な式典を開催

11月1日、日本初の洋式灯台「観音埼灯台」が建造されて150周年を記念する式典が、パレスホテル東京（東京都千代田区）で開催された。式典には皇太子同妃両殿下がご臨席され、塚田一郎国土交通副大臣をはじめ、ローラン・ピック駐日フランス特命全権大使、岩並秀一海上保安庁長官が列席。会場には、海上保安庁関係者や来賓など424名が集まった。開式前には、現存する明治期灯台に関する歴史をたどる映像が流され、列席者たちは日本の海を見守ってきた灯台に思いを馳せた。

明治時代、全国各地に建造された灯台は約120基に及ぶ。現在は、その約半数にあたる64基が、航路標識として現役で機能している。これらの灯台は、歴史的・文化的に価値が高く、日本における西洋技術を導入した建造技術のれい明期の産物でもある。海上保安庁では、後世に受け継ぐために保全作業を行い、その伝統を今に伝えている。こうした地道な活動が150年という長い歴史を紡いできたのである。

さらに150周年を記念して、関係団体とも協力し、全国各地の航路標識等の一般公開や展示会の開催、灯台絵画コンテスト2018、灯台フォトコンテストなども実施し、さらなる海上交通安全思想の普及や地方公共団体との連携強化を図っている。

# フレネルレンズのきらめきと 音楽隊の演奏が彩りを添えた

皇太子同妃両殿下がご列席され  
厳かな空気に包まれた

会場の壇上にはひと際まばゆい光を放つ巨大なレンズが展示されていた。これは、1822年にフランス人のオーギュスタン・ジャン・フレネルによって発明された、フレネルレンズと呼ばれる灯台

用のレンズである。会場に飾られていたこのレンズは、1952（昭和27）年1月に岩手県釜石市所在の陸中尾崎灯台に設置、使用されていたもの。非常に重たいレンズを水銀に浮かべて回転させる水銀槽回転機械という構造をしており、高さ98センチメートル、直径70センチメートル、重さは約160キログラムにも及ぶ。1996（平成8）



日本の海の安全を支えてきたフレネルレンズは壇上でまばゆい輝きを放った

時が迫るにつれて、それまで和やかに挨拶が交わされていた雰囲気次第に厳かな空気へと変わっていった。皇太子同妃両殿下をお迎えするにあたり、それぞれ列席者たちは感慨を深めていたのだろう。アナウンサーがご臨席を告げると、列席者たちは一様に起立して、盛大な拍手が鳴り響いた。音楽隊の演奏とともにご臨席なさると、そのまま国家を斉唱。皇太子同妃両殿下の御前で歌う君が代に会場の誰もが気持ちの高ぶりを覚えたことだろう。

開式の辞は、一見勝之海上保安庁次長が務め、高らかに挙行が宣言された。

## 塚田一郎国土交通副大臣による式辞

「本日ここに皇太子同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、灯台150周年記念式典を挙行できますことは、海上保安庁を所管する国土交通副大臣として、この上ない喜びとするところであります。また、公務ご多忙中にもかかわらず、多数のご来賓のご列席を賜りましたことに深く感謝申し上げます。」

我が国の灯台をはじめとする航路標識の整備は、開国に際し、船舶の航行の安全を図るため、明治元年11月1日、東京湾口の観音崎に我が国最初の洋式灯台で



式辞を述べる塚田一郎国土交通副大臣。会場に集まった関係者の方々の労をねぎらうとともに先人の伝統を受け継ぐことを誓った

ある観音崎灯台の建設に着手したことに始まります。以来、本日ももちまして満150年を迎えました。これもひとえに多くの関係者の方々のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

開国当初、電信や鉄道といったインフラの整備に先立ち、いち早く近代技術を導入して、まさに文明開化のさきがけとなった我が国の灯台は、その後、次々と最新技術を取り入れて、その近代化に努め、発展を重ねてまいりました。ことに戦後、海上保安庁が航路標識を所管することになって以来、技術の飛躍的発達と相まって、電波標識の整備や、自然エネルギーの導入、さらには、交通量が多い海域では船舶の安全な航行に必要な情報の提供を行うなど、常に時代の要請に的確に対応してきたところです。本日の式



パレスホテル東京の2階で開催された式典。左から国土交通副大臣らの主催者席、皇太子同妃両殿下、駐日フランス特命全権大使の特別来賓席



皇太子同妃両殿下を前にして国土交通副大臣や海上保安庁長官の表情も厳か

年11月、灯台の電源が太陽電池に変更されたことに伴いその役目を終え、現在は海上保安試験研究センターに保管されている。まさに灯台の歴史を紡いできた貴重な遺構である。きらめく輝きに照らされた会場は、開式の



塚田副大臣の式辞を受け、会場では灯台150年の歴史をたどる映像が海上保安庁音楽隊の奏でる「灯台守」の音楽とともに流された。近世から現代に至るまでの灯台がどのように発展してきたのかを学ぶ貴重な時間となった。

**はじめりは紀元前**

塚田副大臣は、灯台の歴史的な伝統を重んじるとともに、海の安全・安心を守ることの決意を新たにされた。

「はじめりは紀元前」

塚田副大臣は、灯台の歴史的な伝統を重んじるとともに、海の安全・安心を守ることの決意を新たにされた。



ご臨席された皇太子同妃両殿下は微笑みを浮かべ、式典を見守られていた。その穏やかな眼差しに、会場に訪れたすべての者が深い崇敬の念を抱いたことであろう

# 国民生活に深く関わる 灯台がたどった歴史の重み

灯台のはじめりは古く、紀元前279年にまで遡る。エジプトのアレクサンドリア港の入口、ファロス島に建てられたファロス灯台が人類初の灯台だったとされる。この灯台は135メートルもあり、最上層では大理の反射板の前で火が燃やされ、航路の目印として、夜間は約10キロメートル先からでも見えたといわれる。

日本最古の灯台は「のろし」からはじまった。これは664（天智3）年、吉岐や対馬などの海岸防備にあたった防人が設けた「のろし」が、遣唐使の目標に好都合だったことに由来する。昼は煙を上げ、夜はかがり火を焚いたとされている。

江戸時代になると海外との貿易を禁止する鎖国体制が築かれ、日本には灯明台やかがり火台と呼ばれる独自の灯台がわずかにあるだけであった。江戸時代に建設された灯明台は105ヶ所。我が国最初の灯明台は1596（慶長元）年、能登国（現在の石川県）羽咋郡福浦港に村民の日野吉三郎が建立したとされている。また、ほぼ同時期である1600年頃には、小倉藩主の細川氏も自らの領域内であった豊後国（現在の大分県）東国東郡姫島に灯明台を設置した。灯明台は海路の指標として全国に設置されたが、

その大半は多くの海路が開かれていた瀬戸内海にあったという。

こうした日本独自の灯台が西洋式灯台へと変貌を遂げるのは、欧米諸国が通商を求めて、次々と来日するようになった幕末ごろのこと。1866（慶応2）年に締結された江戸条約において灯台設置に関する条項が定められ、観音崎など8ヶ所に設置されることとなった。1868（明治元）年11月1日の観音崎灯台の建設開始を皮切りに、日本の灯台建設は本格化していった。

昭和に入ると西洋式灯台は300基を

## 「灯台絵画コンテスト2018」 「灯台フォトコンテスト」開催

「灯台絵画コンテスト2018」は全国の小・中・高等学校の児童、生徒から、「灯台のある風景～現存する明治期灯台・わがまちの灯台～」をテーマに絵画作品を募集し、応募があった601点のコンテストを行った。「灯台フォトコンテスト」は日本国在中のアマチュアの社会人（専門学校生以上）及び全国の小・中・高等学校の児童、生徒から、「灯台のある風景」をテーマに募集したフォト作品1632点のコンテストを行った。いずれも国土交通大臣賞及び海上保安庁長官賞が授与された。



「灯台絵画コンテスト2018」の受賞者と関係者らの記念写真。全国で601点もの応募を受け、今年のコンテストも大盛況に終わった

超え、現在は3181基もの灯台が各地で活躍している。灯台は、船舶が船位や変針点を確認するときの指標であり、安全な航海には欠かせない標識となった。四方を海に囲まれた島国である我が国において、航海の安全は近代化にとって非常に重要な役割を果たし続け、その重要性は今も変わっていない。そして、各地で活躍する灯台は、日本人の生活にも深く関与するようにもなった。

### 灯台の伝統を感じる 皇太子殿下のおことば

皇太子殿下も、そのおことばのなかで灯台にまつわる思い出をお話になられた。そのおことばに、これまで灯台を守り続けた海上保安庁関係者たちは万感の思いに駆られたことであろう。

殿下が語られた灯台の思い出に会場全体が感銘に満たされた

# 皇太子殿下のおこし



我が国における灯台を始めとする航路標識の整備が、政府事業として明治元年に始められてから満150年を迎え、その記念式典が挙行されることをうれしく思います。

灯台は、内外多数の船舶にひとしく利用され、日夜、船舶交通の安全を守る大切な使命を担っていますが、その背景には、創業当時から、常に最新の技術と創意工夫によって、航路標識をより見やすく、信頼性のあるものへと改善し、あるいは孤島やへき地といった厳しい環境にも耐えて灯火を守り、航海の安全に尽くしてこられた多くの人々の絶え間ない御苦労があったことを忘れることはできません。

私自身、4歳の頃、両親と共に初めて千葉県に旅行した際に野島埼灯台を訪れました。その後も幾つかの灯台を訪問し、灯台に課せられた重要な使命

を感じることができました。また、灯台守を描いた「喜びも悲しみも幾歳月」の映画や歌の歌詞が印象に残っております。これまで、過酷な環境の中で任務を果たされてきた灯台守の方々から敬意を表します。

近年の航路標識は、技術の進展によって著しく近代化が進み、海上安全情報の提供や、海上交通の管制等によって、海の安全・安心の確保に一層寄与していると聞いております。

この機会に、過去150年にわたる先人の業績と関係者のたゆみない努力に敬意を表するとともに、灯台を始めとする航路標識が、今後とも船舶交通の安全確保に貢献し、我が国を囲む海が一層安全で、美しく、豊かであることを願い、式典に寄せる言葉といたします。

# 日仏友好の証として残る 灯台を守り続ける大切さ

## 駐日フランス特命全權大使の 祝辞

次に、ローラン・ピック駐日フランス特命全權大使が祝辞を述べた。

「皇太子同妃両殿下、国土交通副大臣、議員の皆様、海上保安庁長官、また海上自衛隊の皆様方、観音埼灯台起工150周年の記念式典にご挨拶させていただきますことを誠に光栄に存じているところであります。

観音埼灯台は、明治天皇の命により、フランス人海洋技師であったフランソワ・レオン・ヴェルニーによって日本初の洋式灯台として建てられました。



ローラン・ピック駐日フランス特命全權大使は祝辞を述べ終わると「日仏友好に栄光あれ」と締めくくり、会場は笑みと盛大な拍手で包まれた

幾度かの天災を経て、今日でも機能しているこの灯台は、横須賀造船場、富岡製糸場とともに長く変わることのない日

仏友好の確たる証です。両国の友好は、日本の心を守りつつ、日本が世界における科学技術において、近代に向かって扉を開いた時代のれい明から培われたものであります。150年前、ナポレオン3世皇帝に任命された優れた技師であったレオン・ヴェルニーは横須賀の造船場建築に続き、当時の最新技術を駆使した灯台建設を主導しました。この大事業により、外国船も日本船もより安全に航行できるようになりました。

日仏両国にとって貴重な遺産である観音埼灯台は、今日でも日本の関係機関により大切にされていることを知り、うれしく、また誇りに思います。昭和24年、11月1日を灯台記念日と定め、日仏友好の証がこうして毎年顕彰されています。

灯台はまた、闇を照らし、航海するものの目標となります。また、その灯りは目標を定め、未来へ向かって航行するものを導きます。両国民のために様々な交流が発展し、日仏関係が深まる。ことが、その目標のひとつであると申せましょう。この記念すべき祝賀の時に、両国の経済にとって重要な海上交通の安全のために日々努めておられるすべての皆様に

心より御礼を申し上げます。とりわけ海上保安庁はパリ近郊サンジェルマンに本部を置く国際航路標識協会の理事国でもあります。日本周辺の海域の自由で安全な航行の保持と、そしてまた発展のために常に貢献されています。

終わりに日仏国交樹立160周年に際し、マクロン大統領とパリで安倍総理と交わしました会話のなかで挙げられたすべての分野での両国の交流が未永く発展していくことを願います。なかでも海洋は未来に向けての重要な分野だと確信しております。

最後に、ローラン大使は日本語で「日仏友好に栄光あれ」と締めくくった。その直後、会場に微笑みが溢れ、喝采の拍手が送られた。

## 海上保安庁長官の謝辞 万感の拍手のなか閉会

最後は、岩並秀一海上保安庁長官による謝辞で締めくくられた。

「本日ここに、皇太子同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、多数のご来賓のご列席をいただき、かくも盛大に灯台150周年記念式典を挙行できましたことは、まことに感激に堪えません。

今年には海上保安庁が創設されて70周年の佳節を刻む年でもあります。海上保安



岩並秀一海上保安庁長官による謝辞。皇太子同妃両殿下のご臨席と来賓の方々に感謝の意を述べ、今後の安全業務への決意を語った



皇太子同妃両殿下が式典をご退場する際、主催者は深々とお辞儀をし、会場全体が盛大な拍手に包まれていた

庁初代長官である大久保武雄長官が海上保安官の精神を表す言葉として示した『正義仁愛』とともに、航路標識行政に携わる職員の内には、脈々と『守燈精神』が受け継がれております。先人の不断の努力によって守り続けた灯台の火を守るというこの精神を次世代に継承するという信念をもって、引き続き、海上交通の安全を確保し、安全かつ効率的な船舶の運航の実現に努め、国民の期待と信頼に応えてまいります。

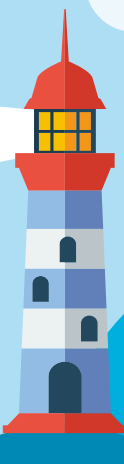
最後にご列席の皆様方におかれましては、海上保安庁に引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。今後とも海上保安官一人一人が全力で任務を遂行することを決意し、本日の謝辞といたします。

閉式後には祝賀会も盛大に行われ、これまで灯台と海上の安全を守り続けた関係者たちが労われ、未来に向けてのさらなる決意を固めたのだった。

灯台150年の歴史と役割を学ぼう！

# 海を見守る灯台の魅力

日本人の心に刻まれている灯台の歴史と今を知る！



## フランス人技師によって 日本初の近代灯台が誕生

1866（慶応2）年、江戸条約締結に基づいて建設されることになった洋式灯台。当時の日本には洋式灯台を建設するための技術がなかったため、江戸幕府はフランスとイギリスに灯台のレンズや機械の買入れと建設の指導を依頼した。この事業を受け継いだ明治政府は、フランス人の海洋技師であったフランソワ・レオン・ヴェルニーを雇い入れて、観音埼灯台の建設が開始された。

ヴェルニーは、パリの理工科大学で造船技術を学び、当時最新だった造船工学を修得していた。1864（文久3）年に来日し、すぐに横須賀で海軍造船所を建設。大型艦船の建造や修船を行うなかで日本人技師の育成にも力を注いでいた。その後、リチャード・ブランドンを首長とするイギリス人技師らによって、1877（明治10）年までに30基の灯台が各地に建設された。明治以降は、西洋から伝えられた最新技術を学んだ藤倉見達らの日本人技師によって、灯台建設が進められた。



観音埼灯台の建設に尽力したフランソワ・レオン・ヴェルニーの肖像。駐日フランス公使のレオン・ロッシュらと横須賀製鉄所の建設案なども作成した

## 厳しい環境にあっても 海を守った灯台守の生活



昭和期の灯台守の生活を写した当時の写真。生活は厳しかったが海の安全を守るために尽力した

灯台で働く人々は「灯台守」と呼ばれた。人里離れた僻地や離島に建てられることが多かったため、その生活には様々な苦労があったという。昭和10年代の当時の職員が記した回顧録を読むと、その暮らしがよくなる。まず自給自足が原則。「野菜を作り、鶏を飼い、海へ下りて魚を釣る」ことが日課であったという。こうした日常の作業も公務の一端だと捉えられていたため、野菜作りのための畝は官給で、野菜を育てる畑は「菜圃」と呼ばれる国有財産の一部であった。生活用水も雨水を利用していた。雨が降らなければ危険な断崖の下から水を運び上げていたそうだ。さらに照明は光量の少ない石油ランプが唯一で、夜になると本を読むこともできない。そのような中で貞明皇太后陛下より御下賜されたラジオが貴重な娯楽となったという。

2006（平成18）年11月の女島灯台の自動化を区切りに灯台守は廃止された。だが、これまで灯台が遺産として残されてきたのは、その貢献があったからに違いない。

## 観光スポットとして注目 灯台が果たす多様な役割

長きにわたり受け継がれてきた現代の灯台は、航路標識だけでなく、様々な役割を担っている。そのひとつが観光資源だ。近年は「灯台女子」などの言葉が生まれているように、愛好家たちが組織を作ることも少なくなく、全国各地の灯台を巡るツーリズムの一環としても注目を浴びている。こうした風潮を受けて、地方公共団体も灯台を観光資源として積極的に活用する事例が増えている。たとえば、「灯台50選」のひとつでもある青森県八戸市の鮫角灯台では、1年のうち約半年ほどの期間、土日祝日に限り一般公開を実施。夏休み期間には平日も公開しており、灯台愛好家のみならず、一般ファミリーの来訪者も多いという。また、神奈川県小田原市の小田原港新一号防波堤灯台は、地元の名産である小田原ちゃんをモチーフにしたデザイン性の高い灯台として人気を集めている。

灯台が現代に果たす役割は多岐に及んでいるのである。

地元の名産でもある小田原ちゃんをモチーフにした小田原港新一号防波堤灯台



行ってナットク! 歴史ある灯台を見学してみよう!!

# 全国各地に残る明治期灯台

宮城県石巻市

## 金華山灯台

きんかさん

1874年2月25日着工  
1876年5月27日竣工  
1876年11月1日点灯

花崗岩を用いて建設された灯台。牡鹿半島の沖合に浮かぶ金華山にあり、アメリカから日本を目指す船舶は、この金華山灯台を見て日本に着いたことを確認する。過去に仙台沖地震や東日本大震災で被災したものの、その都度改修されて現在に至っている。



神奈川県横須賀市

## 観音埼灯台

かんのんさき

1868年11月1日着工  
1869年1月1日竣工/点灯

世界でも有数の海上交通路の大動脈である航路を照らす日本最初の西洋式灯台。64,600枚ものレンガを用いて築造され、建設当初は洋館風の建物だった。幾度の震災で倒壊するもそのたびに建て替えられ、現在は三代目。日本の灯台の歴史の原点として現在も活躍中。



島根県松江市

## 美保関灯台

みほのせき

1897年1月9日着工  
1898年9月30日竣工  
1898年11月8日点灯

山陰地方で最初に建てられた灯台。この灯台の建設にあたり、地元が敷地を提供し、道路を整備したほか、300人が無償で尽力したとされ、地元の悲願でもあった。1930年には与謝野鉄幹・晶子夫妻が訪れており、両名が訪れたことを記念する碑も残されている。



静岡県下田市

## 神子元島灯台

みこもとしま

1869年3月28日着工  
1871年2月29日竣工  
1870年11月11日点灯

日本における現存する最古の洋式灯台。リチャード・ブライトンが設計し、設置当初の姿をそのまま残している石造灯台。灯台のある神子元島は下田市から11キロメートル先にある離島。西から東京湾に向かうためには、ここで航路を変更するため航海上重要な拠点。



島根県出雲市

## 出雲日御碕灯台

いづもひのみさき

1900年11月16日着工  
1903年3月22日竣工  
1903年4月1日点灯

日本人技術者の石橋絢彦が統括して建てられた大型灯台。地上から灯火まで約38.8メートルの高さを誇り、明治期灯台のなかで最も高い。地震に強いレンガ造りで建設されており、人力でこれだけの灯台を建築した当時の技術力の高さを今に伝えている。



千葉県銚子市

## 犬吠埼灯台

いぬぼうさき

1872年9月28日着工  
1874年11月15日竣工/点灯

建設当時は石油灯だったが、非常に大きなレンズで27,500カンデラという光であったため、この巨大レンズに漁師たちが魚たちが逃げてしまうと危惧したが、漁への影響はなかった。灯台内部の階段が九十九段なのは、近隣の九十九里浜が由来だとされている。



静岡県静岡市

## 清水灯台

しみず

1911年5月27日着工  
1912年2月8日竣工  
1912年3月1日点灯

富士山世界文化遺産のひとつとして有名な三保の松原の一角に建つ。日本初の鉄筋コンクリートで築造された。清水灯台の建設は、当時の市長が尽力。製茶の輸出が発展したことから灯台建設が不可欠とした市長は、国に訴え続けて悲願を達成した。



青森県下北郡東通村

## 尻屋埼灯台

しりやさき

1873年6月11日着工  
1876年10月20日竣工/点灯

灯台として数々の発祥地となっている灯台。1877年11月、日本初の霧信号を実施したほか、1901年12月、自家発電による電気灯台の最初となった。また、灯台付近は1968年に下北半島国定公園に指定。周辺では南部馬の血を引く寒立馬が放牧されている。





海上保安学校  
海上保安学校卒業式を挙げる 9/22



九本部(第九管区)  
大盛況!「海フェスタにいがた」で海保ブースを出展 7/14-29



神戸海上保安部(第五管区)  
毎日放送 山中アナがリアル海猿を体験! 10/20



小樽海上保安部(第一管区)  
北海道初!小中学生を対象にした体験航海を開催 9/29



本庁国際・危機管理官  
災害時の給水支援用 非常用給水袋を導入 9/27



種子島海上保安署(第十管区)  
種子島オリジナル海図コースター作製 10/3



今治海上保安部(第六管区)  
瀬戸内海を泳ぐ「イノシシ」 11/6



宮城海上保安部(第二管区)  
保育園で海洋環境保全教室を実施 9/26

# NEWS FLASH



本庁海上保安試験研究センター  
「2018海保フェアin 立川」開催 10/27



那覇航空基地(第十一管区)  
あらしろ保育園基地見学 10/24



七本部(第七管区)  
灯台150周年・海上保安制度創設70周年  
記念イベントを実施 8/30



横浜海上保安部(第三管区)  
ピカチュウによる海難防止活動 10/4



海上保安庁音楽隊  
「都市緑化キャンペーン2018」における演奏 10/21



海上保安大学校  
園児招待実施 10/13



舞鶴海上保安部(第八管区)  
初の試み!LGL に対する非常投浮訓練 11/5



四本部(第四管区)  
第四管区総合訓練を5年ぶりに開催 10/20-21

# 「灯台絵画コンテスト2018」 「灯台フォトコンテスト」 受賞作品が決定!!

150th  
LIGHTHOUSE  
ANNIVERSARY

「灯台絵画コンテスト2018」（公益社団法人 燈光会主催）及び「灯台フォトコンテスト」（一般財団法人 日本航路標識協会、公益社団法人 燈光会主催）の応募作品の中から、それぞれ国土交通省大臣賞及び海上保安庁長官賞が決定されました。



「檜野埼灯台」

なかつ りこ  
中津 凛香さん

和歌山県 日高町立内原小学校 4年生



「金色にひかる野間のとう台」

あさだ まさき  
浅田 舞桜さん

愛知県 大府市立吉田小学校 2年生



「横浜北水堤灯台」

まつやま すすむ  
松山 進さん

神奈川県横浜市



「大王埼灯台」

なかにし ゆうこ  
中西 裕子さん

滋賀県蒲生郡